

磧中の作（岑参）

馬を走らせて西来天に到らんと欲す

家を辞してより月の両回円かなるを見る

今夜は知らず何れの処にか宿せん

平沙万里人煙絶ゆ

走馬西來欲到天 辭家見月兩回圓  
今夜不知何處宿 平沙萬里絶人煙

解説 西方へ従軍し、砂漠を通過した時のひっそり  
としたものさびしい気持を詠った詩。

語釈 ※磧||ここでは砂漠。※西来||西へ行く。

※欲到天||西域の砂漠は、果てしなく続いているの  
で、天に届かんばかりになる。※月兩回円||満月が  
二度。すなわち、二か月を経過すること。

※平沙万里||平らかな砂漠がはるか遠くまで続いてい  
る。※絶人煙||人家の煙が絶える。砂漠の荒涼たる  
さまをいう。

通釈 馬を走らせて西へ行き天に行きつかんばかり  
である。家を出てから、もう二度目の満月を迎えた。  
今夜はどこに宿をとろうか、何のあてもない。広く  
ひろがった砂漠は万里も続き、人家の煙すら見えな  
い。